

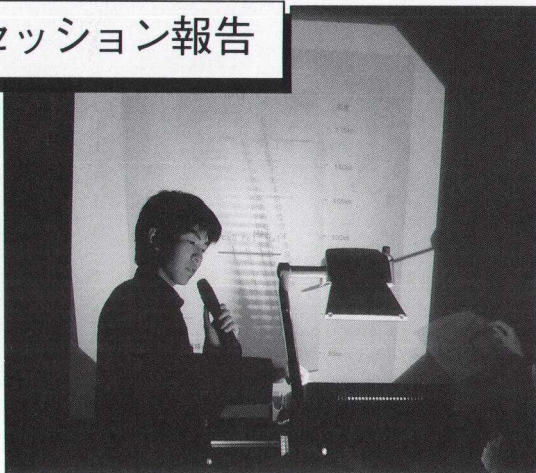
天文学会春季年会・ジュニアセッション報告

2000年春季年会（2000年4月3～5日；東京大学理学部）において、天文学会としては初の企画である「ジュニアセッション」が開催されました。

ジュニアセッションは、特別セッションの一つとして開催されたもので、中学生・高校生を講演者の対象としたものです。現状では、高校生以上の者は誰でも年会の講演申し込みは可能ですが、通常セッションの中で講演をするためには、高校生にとってはかなり高いレベルの研究が要求されることとなります。このセッションは、研究の科学的意義よりも、天文部などで日常的、通年的に行われている観測や研究の成果をまとめて発表する機会を提供すること、研究者と実際にふれあって今後の学習・研究活動の活性化につなげてもらうこと、に重点を置くものとなりました。発表形式は、口頭及びポスターの2種類、口頭発表については初日の午後4時より2時間、また、ポスター発表は共通のポスター会場で全日程として行われました。ただし、この企画は、高校生の通常講演への申し込みを妨げるものではないこととしました。

実は、ジュニアセッションの案は、1年ほど前から年会実行委員の一部の間であったのですが、理事会や評議員会その他のいろいろな準備の段階を経て、今回の年会で実現の運びとなりました。具体的な企画内容や準備については、1999年秋季年会後に結成された「ジュニアセッション世話人会」（代表・吉川真、他8名）で行ってききましたが、企画したものの、果たしてどのくらいの申し込みがあるか、企画倒れにならないだろうかという不安も少々抱えながらのスタートでした。

が、講演申し込み開始とともにそのような心配は吹き飛び、最終的には、北は北海道から西は鳥取県まで、当初の予想をはるかに上回る17件の講

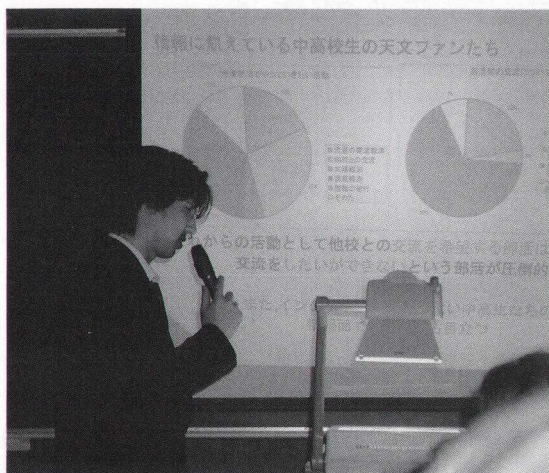


しし座流星群の「大火球のスペクトルの時間変化」についての発表

演申し込みがありました。内容については、今回のセッションにふさわしい講演かどうか世話人会で審査を行いました。完成度の高い発表や、難しいテーマに挑戦しているものも多く、申し分ない発表内容で、世話人会はうれしい悲鳴をあげました。講演内容は、天文部の活動としてはポピュラーな流星群や太陽観測のほか、光害をテーマにしたもの、高校生の天文学に対する意識についてのアンケート調査といった、ユニークなものもありました。

しかし、講演数が多かったために、設定した2時間という枠の中では、残念ながら講演時間、質





「星好きな中高生をとりまく環境」についてアンケート調査の結果の発表

疑応答時間ともにわずかしこ確保できない状態になりました。講演1件に与えられた発表時間は8分で、このような短時間で研究内容をまとめるのは難しかったのではないのでしょうか。また、聴衆の数は予想を遙かに超え、180席のB会場はまたたくまに満席となり、立ち見で会場が埋まるどころか入りきれない人まで出てしまう始末。ざっと250名ほどの聴衆はあったでしょうか。

この大勢の聴衆に最も驚いたのは、講演者本人たちでしょう。それにも関わらず、練習に練習を重ねたと思われる発表は、緊張した面持ちでありなが

らもたいへん明確な口調で、実に見事なプレゼンテーションを披露していました。思わず自分の胸に手を当ててしまった研究者もあったのではないのでしょうか。

講演会場では、講演に対するコメントの記入をお願いしましたが、若き天文学者たちへの応援の言葉や辛口のアドバイスまで、さまざまなコメントが集まりました。ポスター会場でも、講演者と研究者とのディスカッションや交流がさかに行われました。研究者と直接言葉を交わし、自分の研究について説明したり、質問を受けたりと、緊張したがたいへんよい刺激になった、という感想を講演者本人も漏らしていました。そして、またこのような機会があったら是非研究発表をしたい、という意欲にあふれた高校生の言葉もありました。

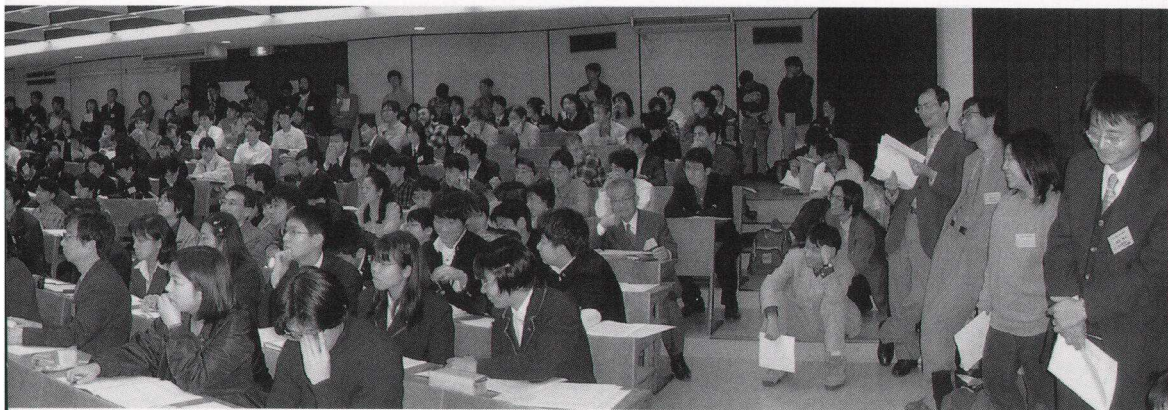
何はともあれ、初企画にしては大成功をおさめたジュニアセッション、是非とも継続して開催したい企画です。世話人会では、次回ジュニアセッションを2001年春季年会（千葉大学；3月26～28日予定）で開催する方針を固めています。

次の春にはまた全国の小さな天文学者たちに会えることを楽しみにしています。

小野智子

（ジュニアセッション世話人会／

国立天文台天文情報公開センター広報普及室）



ぎっしりと会場を埋めた聴衆